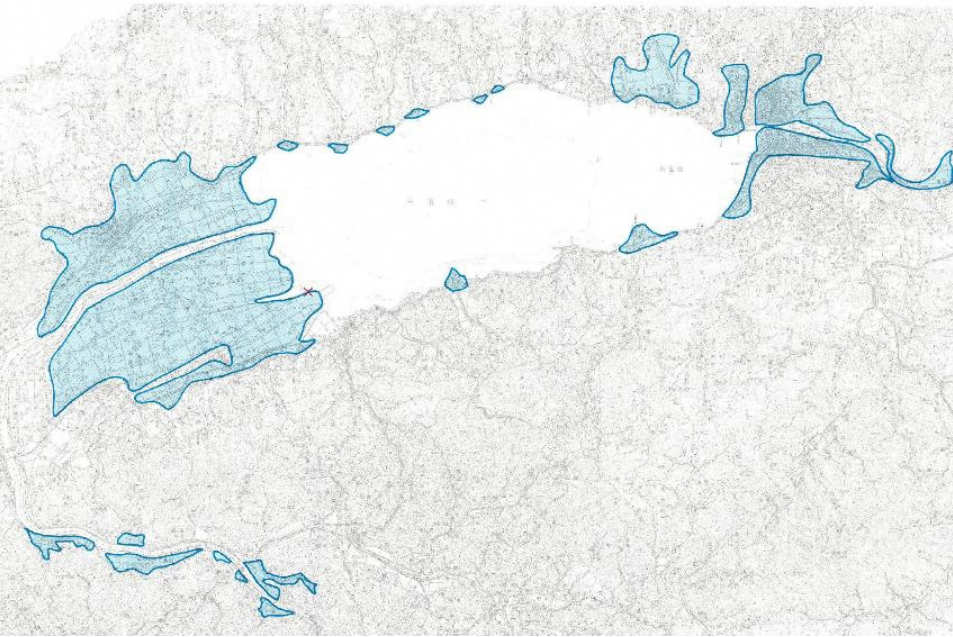


くらしと災害

大雨がふると、川の水がふえて災害が起き、わたしたちのくらしにえいきょうをおよぼすことがあります。



昭和47年7月こう水の時の松江・出雲の状況



松江市・出雲市におけるしん水範囲
(国土交通省 出雲河川事務所 提供)



市道松江港線(労働金庫前)



東朝日町



本郷町通り



殿町(県立博物館付近)

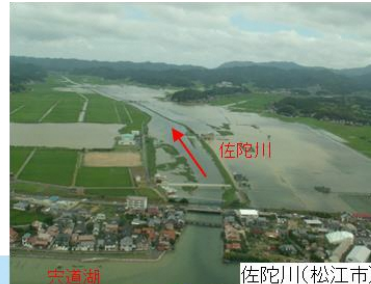
松江市におけるしん水状況写真
(国土交通省 出雲河川事務所 提供)

昭和47年7月3日から7月13日にかけて、活発化した梅雨前線が本州から九州にかけて停滞し、記録的な大雨となりました。松江市・出雲市にも被害が出ました。

平成18年7月こう水の時の松江・出雲の状況



斐伊川本川下流(出雲市・斐伊町)



佐陀川(松江市)



平成18年7月15日から24日にかけて、活発化した梅雨前線が本州から九州にかけて停滞し、記録的な大雨となりました。松江市・出雲市にも被害が出ました。



船津町(出雲市)



玉湯町(松江市)



大橋川中流(松江市)

松江市・出雲市におけるしん水被害状況
(国土交通省 出雲河川事務所 提供)

平成18年7月こう水の時の松江・出雲の状況



7月19日14:30 1.95m
京橋川と大橋川からの逆流による浸水(東本町)



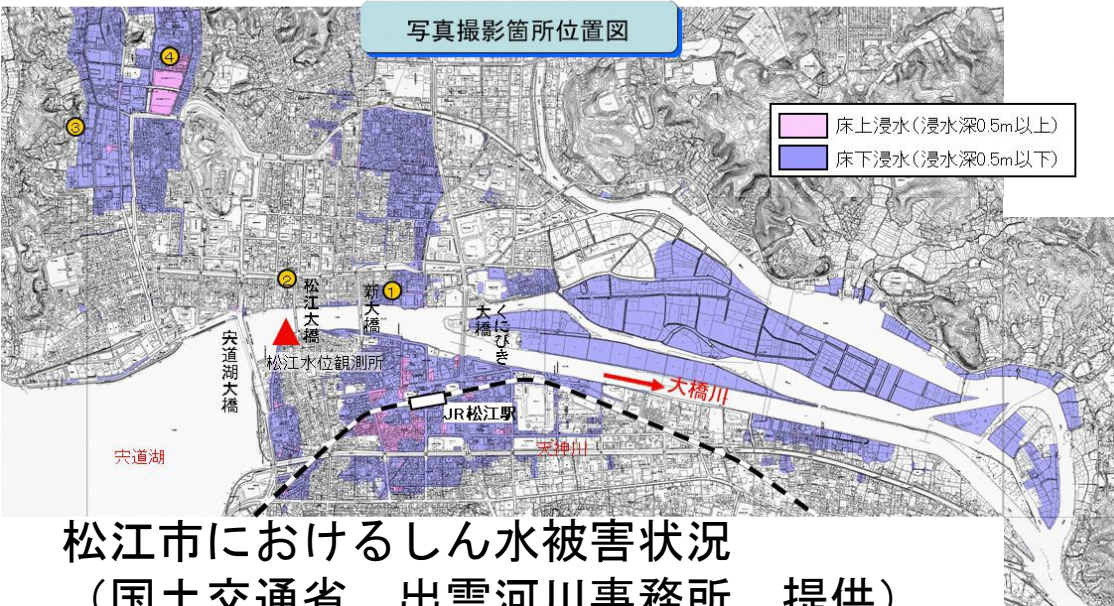
7月19日14:20 1.95m
京橋川仮水門からの逆流で水位が上昇し
運航を中止した堀川遊覧船(末次本町)



7月19日11:10 1.90m
内水による浸水で通行不能の道路(黒田町)



7月19日11:50 1.92m
内水による住宅地の浸水(黒田町)



写真撮影箇所位置図

床上浸水(浸水深0.5m以上)
床下浸水(浸水深0.5m以下)

松江市におけるしん水被害状況
(国土交通省 出雲河川事務所 提供)

平成18年7月15日
から24日にかけて、
活発化した梅雨前
線が本州から九州
にかけて停滞し、
記録的な大雨とな
りました。松江
市・出雲市にも被
害が出ました。

川の災害を防ぐために取り組まれていること

★ダム

ふった雨水をため、一度に大量の水が流れていくのを防ぐ。



尾原ダム（雲南市木次町）（国土交通省 出雲河川事務所 提供）

川の災害を防ぐために取り組まれていること

★さ防ダム

上流から流れてくる土や石をため、下流に一度に大量の土や石が流れていくのを防ぐ。



さ防ダム（松江市美保関町千酌）

川の災害を防ぐために取り組まれていること

★護岸

水の流れによって川岸がけずられるのを防ぐ。



石積護岸（松江市八雲町。八雲中学校前）

川の災害を防ぐために取り組まれていること

★床止め

川底がけずられるのを防ぐ。

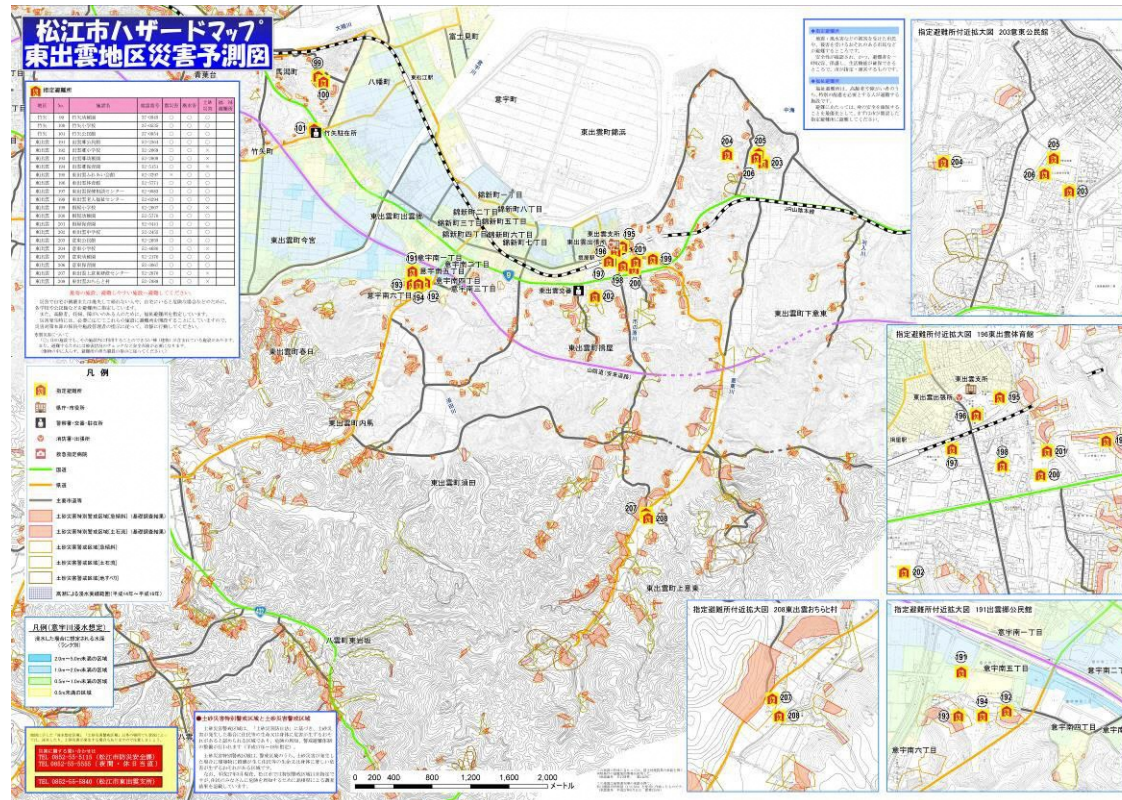


落差工（らくさこう）（松江市八雲町。八雲中学校前）

川の災害を防ぐために取り組まれていること

★ハザードマップ

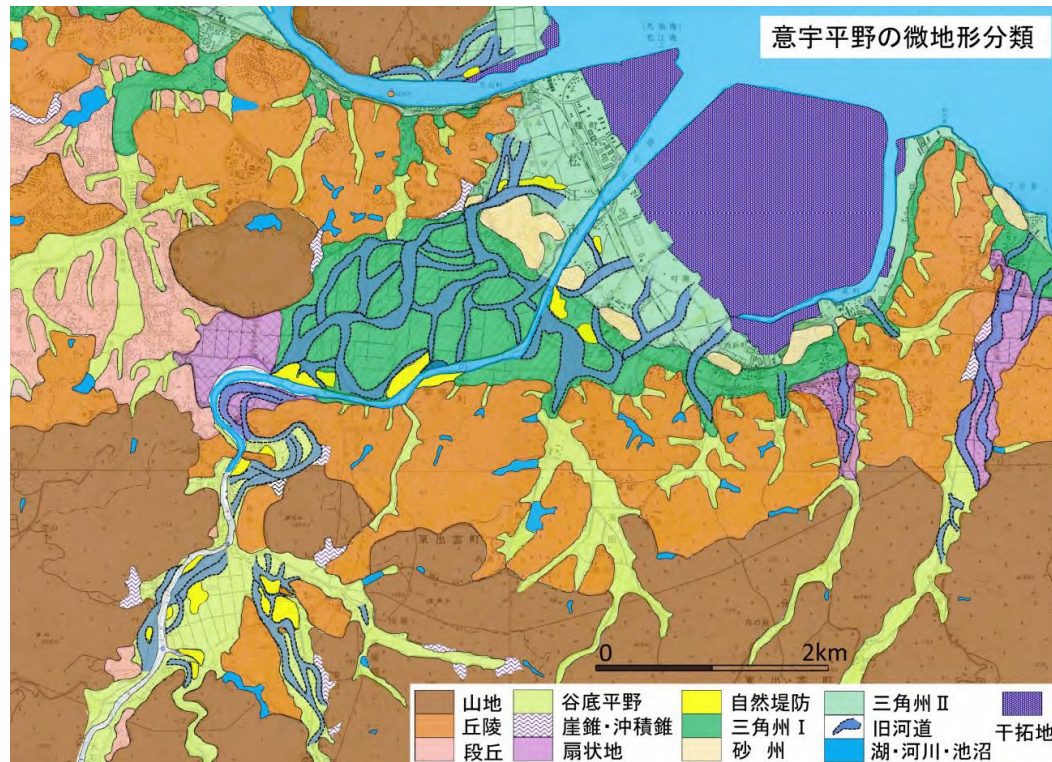
土砂災害の警戒区域やしん水想定区域、ひなん所などが確かめられる。



松江市ハザードマップ（東出雲地区災害予測図）

(補足資料) 意宇平野の形成 ～河川地形と災害～

意宇川河口に広がる平野では、三角州の堆積物と、その三角州を切る旧河道（昔の川の流れた跡）が特徴的です。三角州Ⅰ（濃い緑色）は、縄文海進による海面上昇期（海面のピークは5000-6000年前）に当時の河口付近で堆積し、その後の海面低下によって徐々に陸地となりました。その後海面が現在とほぼ同じ位置になると、意宇川上流からの土砂の供給によって、中海の方に三角州Ⅱ（薄い緑色）が発達していきました。意宇川河口に広がる干拓地は、中海干拓・淡水化事業の一環で、平成元年に造成されました。

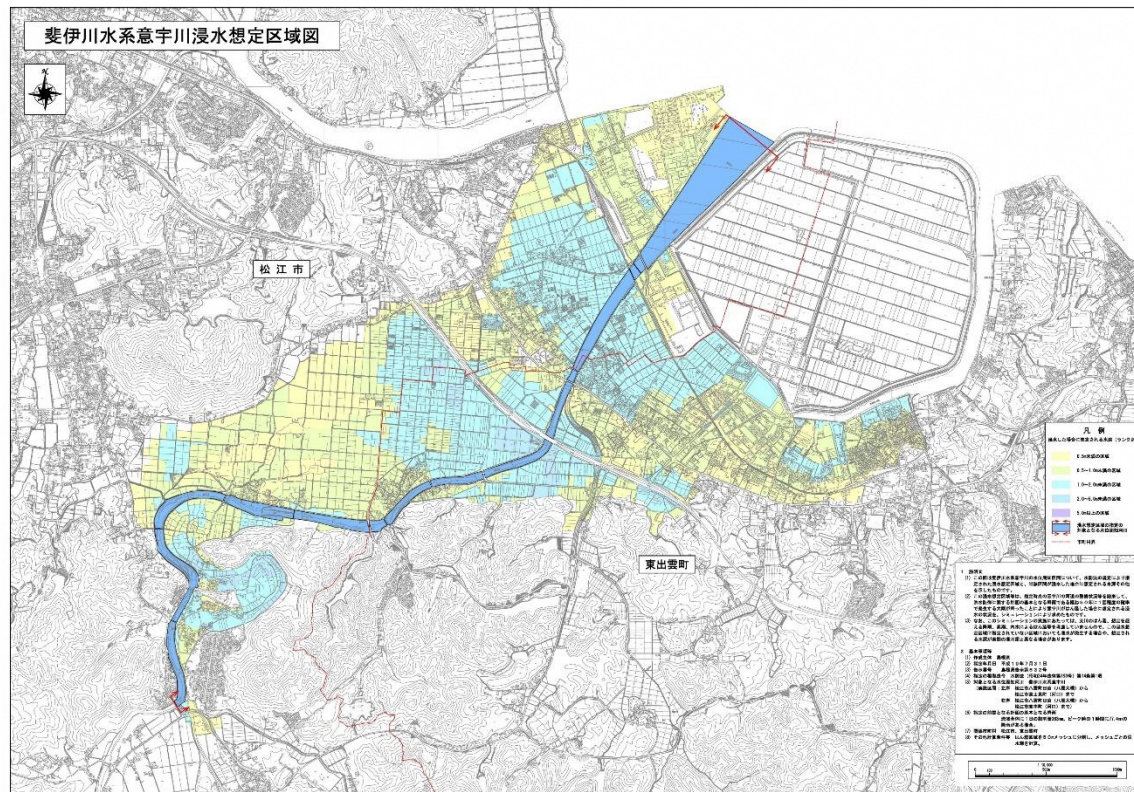


意宇平野の微地形分類

（林 正久，山陰諸平野の微地形分類のメディア化，資料より）

(補足資料) 意宇平野の形成 ～河川地形と災害～

この図は、島根県発行の意宇川の浸水想定区域図です。この浸水想定区域図は、微地形分類とよく合います。三角州Ⅱ面は標高2m以下で、氾濫・洪水の危険性があります。旧河道は、排水が悪く氾濫・洪水の危険性が高くなります。



斐伊川水系意宇川浸水想定区域図（島根県HPより）